

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, November, 2005

課長 関 勉 T. Seki                      幹事 佐藤裕久 H. Sato  
幹事 松本敏一 T. Matsumoto            幹事 江崎裕介 Y. Ezaki

## 11月の状況 (佐藤)

73P/Schwassmann-Wachmann 3

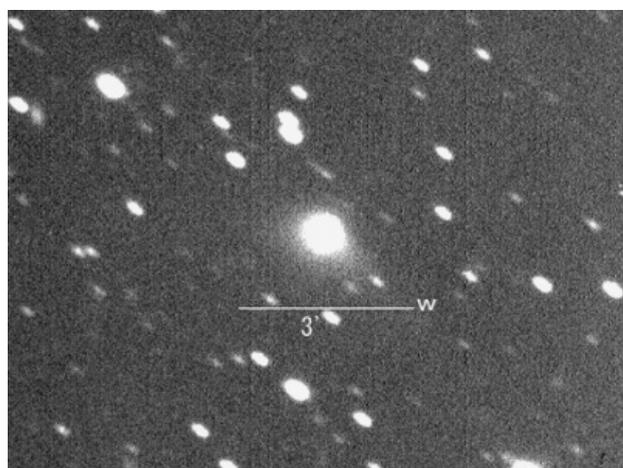
Carl W. Hergenrother (月惑星研究所:JPL) は、月光の明るい中、Mount Hopkins の 1.2-m 反射望遠鏡 (+ Gunn r フィルター) から 10月 22日と 24日に今回帰の初観測となる画像を得た。強く集光した 6 のコマと p.a. 300° に伸びた 8 の短い扇型の尾があった。(IAUC 8623, 2005 Oct. 26)

高知市の村岡健治氏が計算した軌道によると、自己の予報軌道 (T=2006年 6月 6.92354 日 TT) との T は -0.02 日であった。

この彗星は、1995年 8月に核が分裂しアウトバーストを起している。1995年 10月には 5等台後半から 6等台前半まで増光した。さらに、2000年 11月には、埼玉県上尾市の門田健一氏が C核から分裂した E核を発見している。この彗星の主核である C核が 2006年 5月 12日 UT には、地球に 0.079AU まで近づきこの頃肉眼彗星になる可能性があり楽しみな彗星である。ただ、2002年 7月 3日に打上げられた米国 NASA の彗星探査衛星 CONTOUR (Comet Nucleus Tour) が 2006年 6月 19日この彗星に最接近する予定だったが、打上げ 1ヵ月後に通信不能 (軌道変更スラスト作動時に分解の可能性) となったのは残念であった。

C/2005 E2 (McNaught)

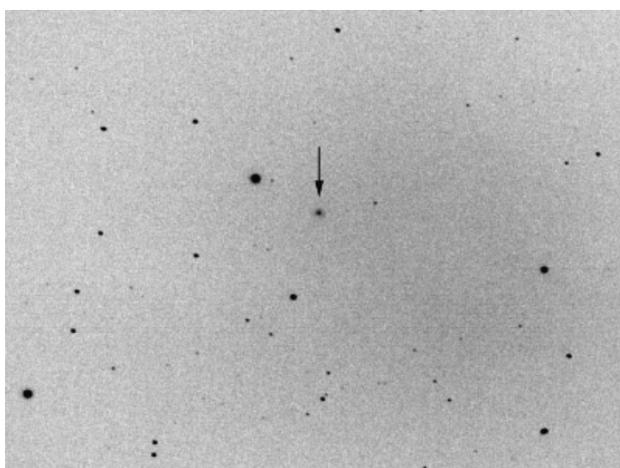
南天から南西の夕方の空にあり、光度は 11等後半から 11等前半の明るさであった。コマの大きさは 1 から 2 といったところ。全光度眼視観測は、スペインの Juan José González (20 cm SCT x100) は、11月 4.86日 UT、11.3等、dia 1.5 DC 4、11月 22.79日 UT、11.2等、dia 1.5 DC 4、と観測し、ブラジルの Alexandre Amorim が、11月 27.95日 UT、11.6等、DC 7 (14.3cm 反射 x100) と観測した。



(写真 a) C/2005 E2 (McNaught) 2005, 11, 25

18h 15m 39s ~ 24m 25s (JST) exp. 90s x5 25cm L + CCD

長野県長野市 大島雄二氏



(写真 b) 29P/Schwassmann-Wachmann 1 2005, 11, 07

21h 10.0m ~ 21.3m (JST) exp. 80s x4 MN61 + CCD

三重県上野市 田中利彦氏

### P/2005 W3 (Kowalski)

11月25.32日 UT、Catalina Sky Survey の 0.68-m Schmidt のイメージから Richard Kowalski が彗星を発見した。光度 18.2 等、10 のコマと p.a. 280° に尾があった。(IAUC 8634, 2005 Nov. 27)

Kowalski は、MPML の管理者で、彗星の発見は今回が初めてである。

当初、11月24日から27日までの26個の観測から B. G. Marsden が近日点通過日 (T)= 2005年4月22.9日 TT 近日点距離(q) = 2.68 AU 軌道傾斜角(i) = 21.4° の暫定放物線軌道を計算した。27日、筆者も軌道計算を試みたところ放物線軌道のほか短周期の楕円軌道が計算できることがわかった。

11月30日までの観測から軌道を計算すると T が 2005年8月23.2日 TT、q が 3.01AU、i が 16.8°、周期(P)が16年あまりの短周期彗星であった。今後暗くなっていく。

その他発見された彗星は次のとおり。

### P/2005 V1 (Bernardi)

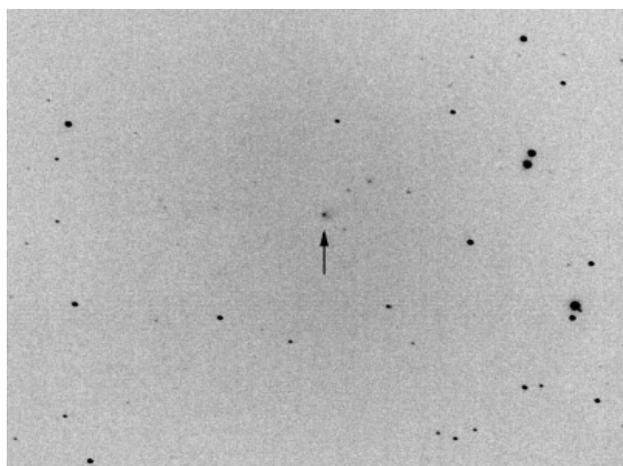
11月1.62日 UT、Fabrizio Bernardi は、Canada-France-Hawaii 望遠鏡で得た画像から 20.5等の彗星を発見した。大変淡い p.a.約290° に12伸びた尾が見られた。16.3年の短周期彗星であった。(IAUC 8627, 2005 Nov. 4)

### C/2005 W2 (Christensen)

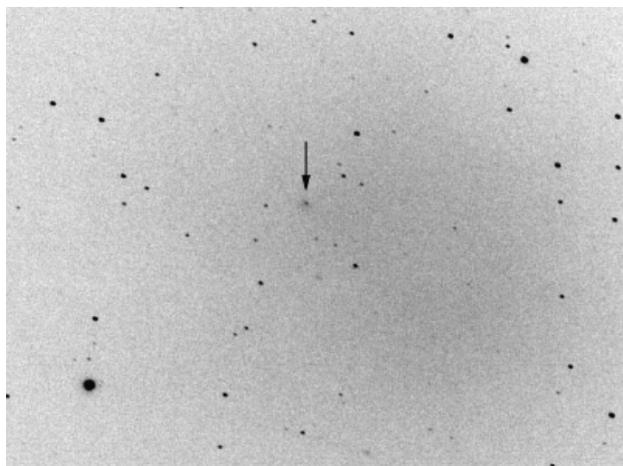
11月20.3日 UT、Eric J. Christensen (JPL) が Catalina スカイ・サーベイのコースで 0.68-m Schmidt 望遠鏡によって発見した。光度 17.1 等、p.a. 230-260° に向かって細長い少し非対称の 20 のコマがあった。(IAUC 8632, 2005 Nov. 22)

その後の観測から T が 2006年3月28.5日 TT、q が 3.33 AU、i が 11.3°、P が 83 年ほどの短周期彗星であることがわかった。

その他比較的明るい彗星は、29P/Schwassmann-Wachmann 1 (写真 b)、C/2003 K4 (LINEAR)、C/2003 WT<sub>42</sub>(LINEAR) (写真 c)、21P/Giacobini-Zinner、C/2005 N1 (Juels-Holvorcem)、P/2005 R2 (Van Ness) (写真 d) などであった。



(写真 c) C/2003 WT<sub>42</sub>(LINEAR) 2005, 11, 08  
2h 10.0m ~ 21.6m (JST) exp.80s x6 MN61 + CCD  
三重県上野市 田中利彦氏



(写真 d) P/2005 R2 (Van Ness) 2005, 11, 07  
20h 40.0m ~ 49.3m (JST) exp.80s x5 MN61 + CCD  
三重県上野市 田中利彦氏